

「武蔵野市地球温暖化対策実行計画 2021（区域施策編）」

「武蔵野市気候変動適応計画 2021」中間まとめ

パブリックコメントの結果について

1 パブリックコメント実施概要

- (1) 募集期間 令和2（2020）年12月11日（金曜日）～令和3（2021）年1月4日（月曜日）
- (2) 提出者数 3人
- (3) 意見件数 5件

2 市民からのご意見と対応等

※ページ数は中間まとめ時点のものです。

No.	市民からのご意見	計画への対応等
1	意欲的な目標を評価したい。正直達成は不可能だと思うが、重要なことは実現可能性ではなく、市の強いメッセージや姿勢を発信することではないか。そのような観点に立てば、計画に具体的方策を書く込むことにほとんど意味はなく、大きな方向性を示すだけで良い。むしろ注力すべきは、計画策定後のモニタリングの精緻さで、これまで以上に排出量をしっかり計測するべきである。	ご意見を参考にさせていただきます。
2	2050年までに温室効果ガスをゼロにすることについて、全力をもって推進してほしい。地球温暖化に向けて日本や世界が動き出しており、武蔵野市もこれに続いてほしい。劇的に世界が動かざるを得ないほど、地球温暖化が深刻化しているともいえる。「市の計画だから」「行政	ご意見を参考にさせていただきます。

	<p>のやることだから」などと他人事にはせず、取り組んでいきたい。</p>	
3	<p>本計画には、以下の点を包括したうえで策定をお願いしたい。</p> <p>①市をあげての再生エネルギーへのシフト</p> <p>② 2030年の削減目標 50%以上への引き上げ</p> <p>IPCCの『1.5度特別報告書』で、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるために、2030年までにCO2の実質排出量を2010年比で50%削減、2050年までにCO2の実質排出量をゼロにすることが必要」とされている。現状ではすでに1.39度まで上昇し、気温上昇を止められるタイムリミットは残り7年とも言われているため、再生可能エネルギーを使用した発電に早急にシフトしていく必要がある。個人レベルではなく、大きな社会レベルでのエネルギーシフトが必要である。</p>	<p>①については、効率的なエネルギー助成制度やごみ発電による地産地消プロジェクトの推進等を計画に記載している通り、今後も二酸化炭素を排出しないエネルギーの活用を推進してまいります。</p> <p>②については、現時点での実現可能性の観点から困難です。したがって、現行通り、国の目標値をベースに本市の事情を考慮して、2030年までの削減目標は35%に設定します。引き続き、国や都の動向や技術の進歩等を注視し、必要に応じて目標値を再設定します。</p>
4	<p>気候変動適応計画について、自治体レベルで今の時点で作る必要はない。不確定要素が大きく、意味のあることを書き込むことが困難である。</p>	<p>ご指摘のとおり気候変動については不透明な部分は大きいものの、長期的な視点に立って大きな方向性を見出すことに本計画の意義があると考えます。</p>
5	<p>日本は気候変動対策において後進国である。武蔵野市にはぜひ市をあげて、日本の気候変動対策を牽引して行ってほしい。気候変動によって災害が甚大化</p>	<p>ご意見を参考にさせていただきます。</p>

	し、その頻度が上がっていることは明らか。積極的かつ早急な気候変動対策へのご検討をお願いしたい。	
--	---	--